

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Dec. 30th, 1960, No. 346

昭和三十五年十二月三十日発行(毎月一回三十日発行)
通卷三四六号

關西大學學報

昭和35年12月 第346号



昭和36年度 大學一覽

關西大學出版部

移民母村の向背

—紀州の二アメリカ村を再調査して—

市原 亮平

経済学部助教授

昭和三十三年の夏休みを利用してわたくしたちは和歌山県のアメリカ村の母村調査をおこない本学報三二〇号にもその調査報告をおこなつておいた。しかしなかなか移民母村の全貌はとらえ難いので三十五年夏休みを使い学校関係当局の手厚い御援助と学生諸君の熱心な協力のもとに再度調査行をこころみ次第である。調査地は主として東牟婁郡太地町と日高郡美浜町三尾である。ここに調査報告を要約し各方面の御厚意に応えたいとおもう。

(1)

紀勢西線を南下、海南市を出てしばらく黒江湾に沿っていくつかのトンネルをくぐり有田・湯浅らの紀州ミカンの本場を窓外にみながら御坊につく。御坊駅からアメリカ村—三尾までバスで三五分、日御崎灯台をすぎゆく頃から耕地乏しく貧寒な漁村風景が目につけてき、明治らしいこの地の窮乏化や人口圧力がそぞろに偲ばれる。美浜町の本之脇から日高川の河口までを煙樹ヶ浜といひ三尾をふくめて国立公園に指定され夏はバンガローやキャンプ生活に賑ふ。三尾部落の人口は約一、七〇〇人そのうち一、二〇〇人が移民帰りであり、それとほぼ同数の人がアメリカに渡つてゐる。帰国する一世や日本で教育をうけるために帰つてきた子供たち、二世・三世の呼び寄せ結婚など三尾との往来はいまもなおおほいしい。ベッド・タイル張りの台所・パン食・水洗便所のある住居・英語のまじつた会話——これら三尾のエキゾティックな表情に耳目をうばわれて、過去の歴史にたいする冷徹な検討を忘れてはならない。

三尾村の劣悪な自然条件と不相応な過剰人口にもとづく貧窮化からの脱出路——それがカナダに通じた。三尾は三方に山を負い南方は海に面している。耕地乏しくしかも風や潮の害をうけて収獲は不安定——農業はこのようにして頼り難いので従来三尾人は多く漁業に依存してきた。しかし漁業の立地条件も恵まれてはいず、沿岸には岩礁があり曳網には適していず、港湾は波浪がたかく大型漁船の碇泊が困難であつたうえ、明治二〇年には沖合漁業権を他に奪われ村は窮迫の一途を辿つた。恰度太地で旧式の鯨組が解体したのが出稼ぎ・移民の発端であつたと同様に、この三尾では漁業権の喪失が移民の直接の契機となつた。移民母村化の進行による経済的効果のたかまりにともない基幹労働力は出稼ぎ・移民化し漁業の不調が移民を結束したが、後者が逆に前者の不振を促進するという循環作用が成立した。村民はぞくぞくカナダに移りそこで主として罐詰資本や水産資本の労働者となり、地元での漁業の資本主義化は阻まれた。

三尾は寛永時代に早くも房総地方に出稼を出したこともあり、村ではこれを関東行と称して水盃を汲んで見送つたという。大きな転換の年は貧しい大工工野儀兵衛がカナダに密航した明治二年にやつてきた——彼は兄弟や三尾人をぞくぞくカナダに招き寄せはじめたのだ。明治三年にカナダ三尾人会ができたときには会員すでに五〇人にたつた。同会四〇週年記念号はこういふ。「その後の渡航者も逐年増加し殊に婦人の渡米に伴い出生児童の激増と共に、春秋茲に五十年、老幼男女総数衣に二千数百名にも匹敵するの實数を占め、墓参、錦衣、帰朝等年々数十名の多きに達し郷里塞村は一変して黄金郷となり、世人呼んで『紀州アメリカ村』と称す。河畔の一角ストブストン村を以て『カナダの三尾村』というも過言でない」と。村の基幹労働力は多くカナダで漁業に従ひ肉体的労働をともなう被雇用者の地位につきそこで最下層を形成してはいたが、それでもその所得はわが国最低辺層とは比較にならないほどたかかつた。明治四二年渡米者は一万円を寄せて郷里に小学校舎を設けるなど移民の出稼主義のため生じる移民先と母村との有機的関係はつよまり母村のアメリカ化はすんだ。「郷里塞村は一変して黄金郷」に化したかどうかは問はないとしても、白壁の住家、和洋折衷の居室が設けられ、台所の電化などがすすめられ、昭和六年に母村に建てられた「工野儀兵衛翁ノ碑」には左記のような頌徳の文字がよまれた。「翁在米二十五年遂ニ自ラ産ヲ成スニ至ラズト雖も後進ノ翁ニ依リテ志ヲ達セル者其數ヲ知ラズ、今ヤ三尾ノ村民過半ハ彼地ニ居リ民戸ノ殷富近隣ニ比ナシ」。母村化にともない移民先への経済的依存の増大は母村の経済基盤を衰退させ寄生化をおしすすめた。日本移民の多くがさうであり太地移民もまたしかりであつたように三尾の移民も腰掛の出稼ぎ、カナダ西海岸で多少の産を収めたものはさつそく帰郷して母村での生活をひきあげた。移民の多くは中ないし下層から出たが、彼らは帰村してのちは上ないし中層に階層の上昇をしており、三尾の諸階層の地位に激変をあたえるほどの致富には手がとどかなかつたにせよ、いちおう移民の宿願ははたされたとみてよい。三尾は「黄金郷」に一変したという誇大の言にすぎないが、「近隣ニ比ナシ」程度の生活水準のひきあげには成功したのであつて、これは和歌山県の他の移民を送出したはずアメリカ村化でできなかった沿岸漁村と比較してみると一目でわかることである。移民もおくれず新天地も開始できなかった沿岸漁村は沖合漁業に進出し資本制漁業を發展させることができたところでも不透明な漁民の階層分化のつねとして多数のミゼラブルな漁業労働者や漁家をふだんに再生産してきたのであつて、

ここに三尾や太地などアメリカ村との生活水準の落差が生じたことは否めない。太地や三尾には旧来の沿岸漁村をしめつけたような網元と船方とのいちじるしい貧富の懸隔は母村化の影を消している。耕地もせまく工場もなく産業景観も貧しい三尾に不似合な立派な家屋が並んでいるのをみると、消費生活の向上や衣食住の近代化とひきかえに自分の経済基盤を喪失したとそしてそれゆえに経済的支柱がカナダに移つてしまつたことが理解できる。「紀州のアメリカ村」は「カナダの三尾村」と有機的に一体化しており、カナダは生産の場であり三尾は生産を奪われた消費生活が基軸となつている。かくて三尾には移民からとり残された人、出稼ぎの仕送りに依存している老人、子供や教育のため一時帰郷した二世や三世たちが曲型的な母村型人口構成——被扶養年令層とりわけ老年層の高比重と生産年令層の過少——をかたちづくつていく。

若夫婦は殆んどみあたらず、青年団はわずか六名の男性と十四名の女性によつて成り、小学校の児童数はわずか一八八名にすぎない。三尾の最適人口は六〇〇—一八〇〇人程度であつて、現在一、〇〇〇人内外の人口量が過剰であると有識者はきかしてくれた。三尾の人口は明治いらい一、四〇〇—一、七〇〇名の人口数を上下している。近頃は再渡米や内地流出するとすぐ教員や官庁職員などサラリーマン層が職業移住してここから通勤し一種のベッド・タウン化する傾向もあつて、人口数の増減は相殺されて現状維持にちかいつつ。さきにくれたように三尾移民は出稼主義に徹して、彼地では封鎖的日本人集団を形成して同化を拒んだのでアメリカ化も衣・食・住など外面にかざられ人間類型や思想まで変改するといふことは稀であつた。それゆゑ移民が太地のように自由主義イデオロギーや社会主義をもちこみなんらかの民主主義運動を展開するといふこともなかつたやうである。だから母村化に伴う生活意識の頽廢化がみられ各種の選挙はきわめて

低調で社会意識はいちじるしく稀薄のようにならうけられた。移民は彼地に同化しカナダの市民になりきることでもできず、さりとて帰村して三尾に腰をおろし母村の政治や経済の体質改善に真面目にとりくむといふこともできず、彼らはいわば根なし草であつた。このよくな根なし草のあり方が第二次大戦中とりわけ三尾人に惨禍をもたらしたといえよう。——ゾルゲ事件の宮城と北林の二被告がアメリカ帰りであつたこと、しかもロスアンゼルス帰りの北林トモが貧しい移民であつた夫の故郷和歌山にひきこもり中検査されたこと、三尾内日御崎灯台が戦災にあつたことなどが原因となつて三尾人間にスパイ問題がおき官憲は神経過敏となり、三尾の壮丁の多くが徴兵され故意に危険な第一線におくられ夥しい戦死者を出したといふ。その寄生的性格のためカナダ三尾村との有機的関係を切断された母村は致命的な打撃をうけ送金の中絶はかれらの生活を移民以前の極貧状況におしもどし三尾には陰暗な空気がたれこめた。

大日本帝国の崩壊は三尾にも一陽を來復させカナダとの有機的関係をいちおう回復させたが、戦後移民の出稼主義から永住への形態転換は三尾から寄生化の基盤をうばいさりつつあるやうである。すでに二、三世に交代しつつある移民先からの仕送りに依存することは一層困難になつてきている。農漁業が大多数の三尾人にとつて家計補助以上の意味をもつていない現況で母村寄生化の基盤をカナダ三尾村以外にどこにもとめたらよいか。ここに「アメリカ村」という魅力を一枚看板にし美しい海岸と再建された日御崎灯台を舞台とする観光事業が登場し町長や有力者は県の観光化政策に一体となつてサーヴィス業に光りをみいださうとしていく。昭和二十七年に発足した南海観光株式会社は日御崎を売却し三尾を観光的に開放し普通の民家でさえたやすく観光客を泊めさせるなど鋭意観光地化に努めているが、地元民はこれで三尾に新生命がふきこまれるとはたれも信じていない。移民母村がかもし

出す無気力な生活意識に観光地化に伴う寄生的な頽廢性が複合している現況では、観光地化が三尾の眞の打開策であるかどうかを熟考させ、アメリカ村の救われる道はひろく日本社会の政治と経済とが救われるまでは開かれないとの感じをつよくさせる。

(2)

さてつぎに、われわれは、御坊から紀勢西線を一略南下して和歌山県の南端串本から東方にむきを転じ一時間あまり山麓の小駅太地に降りたつて、第二のアメリカ村太地町を再訪問しなければならぬ。

ここ太地が日本捕鯨史上のみがすことのできない先駆の地であることは福本和夫氏の近著「日本捕鯨史話」や山口麻太郎「初期日本捕鯨の諸問題」(社会経済史学二五卷五号)であきらかなとあり、わたくしも前稿や本学経済論集で指摘しておいた。突取捕鯨法は太地和田組によつて網取に併用され仕上げられるようになり寛文以後二百二十年の久しきにわたつて日本独特の沿岸捕鯨法として用いられた。そのマニユファクチュア形態は世界に例なく、明治十一年鯨組の解体にいたるまで存続したのである。旧式捕鯨の解体が在郷原始的資本の未蓄積を主因として太地人に「蒼氓」の旅を強いた次第は本学報三二〇号でしるしたとおりである。だがそれから以後のコースはいちじるしく三尾とことなつてくる。太地では大正五年にそれまで太地の地先定置漁業権をひとり占めして収益をほいままにしていた九州の伊丹財閥を駆逐するの成功し、地元で屈強な経済基盤を確保し村内政治や経済の民主主義化をはかつていく。三尾のように地元固有な経済基盤をもたずそのまま没主体的に母村化の一途を歩んだのではなかつたのである。太地人はここで確保した定置漁業の経営主体として他に類例をみない「水産共同組合」をつくりあげ、この共同経営体をテコにして太地の政治や社会の体質改善にのり出していくのである。この太地「水共」は共同経営一般に解消できない特殊性をもつていた。

そもそも日本漁業せんたいの構造のうちで個人経営でも資本家経営でもない共同経営の比重はかなりのこととは常識である。しかしこれら大多数の共同経営体は個人配当に重きをおき資本主義的経営の別の表現にすぎなくなっているし、できた当初からそのような性格をもつていた。太地の「水共」はこの点でまつたこととなり、明治社会主義者のプランによつて成つた。「自治体社会主義」の理念の産物で個人配当は抑止され当初から収益の自治体施設への寄附や公共事業への財源くり込みが規約化されていた。太地「水共」の育ての親は主として移民帰りの自由主義者や社会主義者であり、彼らは三尾移民とは異なり衣・食・住面ではそれほど濃厚なアメリカニズムをもちこまなかつたけれどイデオロギーや内面性向にはかなり腰のすわつた市民精神をもちかへつた。当時太地の社会運動に尽力したのは庄司楠五郎、前田兼蔵、筋師千代松、山本政蔵、橋本隆の諸氏で庄司・前田・筋師氏らはいずれも渡濠・渡米の成功者で実地にリベラリズムが何であるかを身につけて帰つた人だつた。山本氏もまた調査で関西大学の前身関西法律学校を出た法律家。山本氏は東洋哲学館を終えた哲学徒。二人はともに社会主義者となり片山潜のもとに出入りし明治四〇年に日本の社会主義者を二分した直接行動派と議会政策派の論争じぶんには議会政策派にぞくしたといわれ、帰郷してからはこれまたアメリカ帰りの新宮の大石誠之助ら紀州派社会主義者と交渉しあいながら、村政の中枢に位置を占めた庄司氏の庇護のもとに「水共」運動にしたがつた。

〔表〕 「水共」 逐年漁獲金高表 (単位円)

| 年 | 代 | 八 | 角 | 鰯 | 敷 | 事務所 | 合 | 計 | 当 | 段 |
|----|----|-----------|-----------|------------|---------|------------|------------|-----|----|---|
| 大正 | 5 | | 4,552 | 92,744 | — | — | 97,296 | 1 | 47 | 1 |
| 同 | 6 | 5,889 | 43,137 | 55,874 | — | — | 104,900 | 1 | 83 | 1 |
| 同 | 10 | 14,986 | 43,493 | 132,592 | — | — | 191,071 | 3 | 55 | 1 |
| 同 | 15 | 19,156 | 47,630 | — | — | — | 66,786 | — | — | 1 |
| 昭和 | 7 | 2,033 | 7,535 | 195,210 | — | — | 204,778 | 208 | 00 | 1 |
| 同 | 15 | 14,559 | 32,076 | 133,129 | — | — | 179,764 | 296 | 00 | 1 |
| 同 | 23 | 979,097 | 1,556,550 | 18,943,913 | 903,248 | 22,392,803 | 22,392,803 | — | — | 1 |
| 同 | 26 | 2,483,131 | 3,904,064 | 59,399,333 | 447,932 | 66,233,460 | 66,233,460 | — | — | 1 |

が子ら社会主義者がこの新聞に協力し大いに筆をふるい講演会や懇談会を催し南紀に一陣の新風をまきおこしていった。太地の社会主義者も紀州派と交渉しあいながら熊野新報や紀南新聞に寄稿し漁民の解放運動に意をもちいた。(たとえば大石の「熊野の水産業者に望む」(牟婁新聞明治三十九年十一月)をみれば彼らの主張がわかる。)紀州派は幸徳事件の被告としてあるいは絞首されあるいは無期の刑に服した。毛利氏や海村氏も取調べられたが危ふく連累を免れた、ときく。これら明治社会主義者の冬の時代における産物として太地「水共」は順調に収益をあげ、移民出稼ぎ収入と並んで太地経済の二大支柱となり、漁民の貧窮化の阻止と中産化に大きな力を發揮した。ころろに「水共」の逐年の漁獲収益をしめすと次表のようになる。

大日本帝国の崩壊は三尾と同様にアメリカ村太地の移民の出稼主義を清算させ移民先との有機的な関係は脆化してきている。くわえて特異な「水共」も政府の漁業政策と戦後新しく抬頭したかつてまぐる業者の町政把握とにより、その独自性をしだいと薄弱にし一部役員層の代弁機関化してき、その収益も低滞し、庄司・橋本氏は「水共」組織の頽廢と私益機関化を嘆きつつ歿したという。

漁民は南極捕鯨船団に二三〇余名が、西濠の真珠貝採集船団に三〇余名が参加し彼らは年間五〇一三〇〇万円の配当金をもちかえり、太地はいまやこの出稼き人気にひきづられていくようである。そこから三尾と共通な青壮年の労働力の基幹部分の母村の政治や経済にたいする無関心や無気力なムードがうまれ主婦層を除いては太地の向背についての建設的な努力が乏しい。明治の昔に移民の先駆として渡米し片山潜と協力し在米社会主義者の一中心となつて活躍したえず母村の發展を所期した石垣栄太郎氏(われわれの泊つた旅館は石垣氏の親族の経営であつた)がなつかしい太地に戦後帰郷したとき、太地の人心はあまりにも冷たく精神の頽廢を彼は嘆き故郷を逃れたという(石垣綾子「愛と別れ」)。南極捕鯨も国際捕鯨会議の規制があつて太地人の船団参加も飽和状況にあり、母村の経済基盤は大きくゆらいでいる。そして町政当局の太地の救済策として採られたプランは三尾と同じ観光地化であつた。昭和三四年秋に近鉄資本を導入し地元との折半出資で太地観光開発会社が設立され小ホテルが設けられゴルフ場や熱帯植物園が企劃され温泉用のボーリングが盛行している。県の町村合併案に反対した町民の衆望によつて町長に就いた庄司楠五郎氏の三男太郎氏は革新イデオロギーの持主であるが(関西大学二部の卒業である)、その太地救済プランは観光地化にありここに三尾と共通なアメリカ村の向背をみる。電鉄資本の好餌として観光地化の運命を担うこの二つのアメリカ村の軌道は現代日本における沿岸漁村の方向をすどく暗示してはいないだろうか。

われわれは県政や町政当局の標榜するとおりに観光地化が町経済の体質改善策であり産業構造の近代化であるとして手放しで喜んでよいだろうか。アメリカ村

(13頁下段へ続く)

学内報

臨時評議員会

関西大学寄附行為第十八条の三項により、臨時評議員会が十二月二十四日(土)午後二時より天六学舎において開催され、左の議案につき審議した。

議案

- 一、昭和三十五年度学校法人関西大学収支補正予算に関する件
- 二、高速道路補償金に関する件
- 三、予算外義務負担に関する件
- 四、寄附行為改正委員会に関する件

出席者(五十音順、敬称略)

- 明石三郎、阿部甚吉、池田信之助、石井寿一、岩佐清三郎、上田高嶺、上野俊彦、上道直夫、江里口春志、越智比古市、大小島真二、大島武夫、大森俊次、岡野衛士、榎本信雄、門上敏夫、金本朝一、菊久池博、黒岩博、小寺小市郎、小林巖、河野稔、後藤正身、酒井彦一、杉原四郎、高木秀文、竹沢喜代治、辻野新一、寛田知義、中石清一、中沢俊雄、長柄金吾、浪江源治、西村治三郎、西本寛一、野間秀泉、畑下辰典、久井忠雄、深川実、本多喜慶、前川信之助、松尾高一、松原藤由、松広寿衛、松村睦鴻、万

谷権雄、三島律夫、三好万次、宮崎幹大、村尾静明、矢口孝次郎、保井剛一、安井章吾、山崎敬義、横山栄吉、吉田鹿之助、吉富二郎

昭和三十五年度

私立大学理科特別助成補助金

交付内定

「私立大学理科特別助成補助金取扱要領」(昭和三十三年六月十八日文部大臣決議)に基き、文部省より本年度本学の工学部助成のため左記補助金を交付されることになった。

なお、金額は前年度に較べて、五、二五五千円増となつている。

補助金総額 三四、五〇五千円

内訳

- 機械工学科 七、六二六千円
- 電気工学科 七、四一八
- 化学工学科 六、五二二
- 金属工学科 七、一七七
- 管理工学科 五、七六二

藤本助教教授渡航

文学部藤本勝次助教は昭和三十五年度在外学術研究員として「イスラム史並びにイスラム文化研究」のため、十一月四日(念)大阪発九時「第一つばめ」号で出発、同七日十時羽田発BOACでカIROに向つた。

荒井助教教授渡欧

経済学部荒井政治助教は、昭和三十五年度在外学術研究員として「イギリス産業革命史―特に企業形態および金融組織の発達―」研究のため十一月十二日(土)伊丹空港発十二時二十分「日航三〇四便」で出発、同十三日午前十時羽田発「BOAC九六五便」で渡欧した。

昭和三十六年度在外研究員決定

昭和三十六年度学術及び調査在外研究員は去る十月二十五日の理事会で左の諸氏に決定した。

- (学術) 法学部助教 本浪 章市
- (同) 経済学部助教 市原 亮平
- (調査) 文学部教授 壺井 義正
- (学術) 商学部助教 酒井 文雄

教養委員会部長代理

及委員一部更迭

教養部長代理杉原四郎教授の経済学部長代理就任のため、その後任に法学部石尾芳久教授が十一月一日付で任命され、また、教養委員藤本勝次(文)助教教授の外遊に伴い、その補充に加藤一朗(文)助教が十月一日付で任命された。

学会

歴史学講演会

本学文学部、東西学術研究所共同主催で、大阪府及び市教育委員会、毎日新聞社の後援を得て、関西大学歴史学講演会が十二月十日午後一時より毎日新聞社大阪本社講堂で開かれ、多数の好士の士を集めて盛大であつた。

一、講演題目及び講演者

総合課題「日本外交の歩んだ道」

1、「日支事変勃発後の日中関係」

本学教授 三上 謙 東西学術研究所員

2、「三国同盟時代」

本学教授 加藤三之雄

3、「明治末・大正始の日本外交史」

大阪市大教授 中山 治一 文学部 博士

東方学会

東方学会昭和三十五年度大会が去る十一月四日日本学千里山学舎、大学院階段教室にて講演会、図書館にて考古学参考品、泊園文庫蔵秘籍展示会、ホールにて懇親会が催された。



当日はたまたま本学創立七十五周年記念祭典催され、午後は校友大会あつた上に、他の大学は授業日に付き、来会者は百数十名を数えた。

講演では、本学の高橋盛孝教授が「億という数」の演題で、日本及び東亜諸国の数詞の比較にて最近行われつつあるアイヌ語―印欧語説日本語―オーストロアジア語群説などについて紹介批評し、続いて東大山本達郎教授の「印度デリー附近の古代遺跡」は水道、プール等の施設を中心に仏教文化前と後にわたり、対比研究を発表され鮮明なるスライドを使用し、一同現地に遊ぶ思いがした。夜は懇親会でいろいろ批評があつた。

同会は、大体隔年毎に東京と関西にて大会を開き、臨時の会合は、必要の都度開催、日本全国の東洋学関係者は勿論欧米、アジア方面の学者も多数参加し、年一回位は在日外人のみよりなる研究会も開かれる。関西方面では京大の吉川幸次郎氏の研究室に本部があり、東京方面の本部は神田神保町にある。日本学者の研究を英文に訳出紹介され居り、外務省より多額の支援を得ている。関西方面の大会は大体は京大で催されるが、竜大で催した事があり、関大で催したのははじめである。

万葉学会

昭和三十五年万葉学会が十一月五、六、七、八の四日間開かれ、その中五、六両日は本学千里山学会で催され、多数関係学者が参集して盛大であつた。

なお、学会のスケジュールは左の通り
五日講壇会 大学ホール階段教室

感良の虚構歌 本学 教授 吉永 登氏
万葉の調子かた 京大名誉教授 博 沢 湯 久 孝氏

子規及びその後継者たちの万葉観 明大 教授 土 屋 文 明氏

懇親会 午後五時より大学ホール(出席五十名)

六日 研究発表会 大学院

「花散らふ秋」と「雪降る秋」と
―枕詞と呪詛― 国学院大学 手 桜 井 満氏

万葉集歌の伝承 東大大学院 生 金 井 清 一氏

「万葉考」に於ける本文批評について 香川短期大学 講 師 河 野 頼 人氏

類聚石集の部類 本学 講師 神 堀 忍氏

入麻呂類歌考 東大大学院 生 阿 蘇 瑞 枝氏

「戯奴」について 大阪市立大学 講 師 井 手 至氏

石垣淵の隠り 和洋女子大学 教 授 賀 古 明氏

類聚書をめぐる問題 大阪市立大学 教 授 小 島 憲 之氏

七、八日 播州万葉遺跡旅行 明石―藤江浦―江井が島―加吉川―曾根―的形
―相生―赤穂―沖の辛荷島―室津―飾磨―姫路

日本鉄鋼協会 関西分析研究会 日本金属学会

日本鉄鋼協会・日本金属学会関西分析研究会は、十一月十九日日本学千里山工部学舎で、百三十二名の出席者を集めて開催された。

學術講演 球状黒鉛鉄の炭素分析法について 関西大学 工 学 博 士 尾 崎 良 平氏

含チタン 鑄鉄中のチタンの存在形態ならびにチタンの應別定量法に関する研究 関西大学 工 学 博 士 津 田 昌 利氏

右講演を終り直ちに 金属材料の成分偏析に関する討論会 京都大学 工 学 博 士 舟 坂 渡 司 会

右の通り最近特に学界、業界で関心の深い事項について講演と討論会を行った後、新学舎の見学を行つて散会した。尚、同時に役員会も行った。

佐藤選手三大会に完勝

フィギュア・スケート

一高から本年経済学部に進学した佐藤信夫選手は、過般オリンピックに出場、帰国后去る十一月十七日大阪スケートリンクで行われた第八回全関西フィギュア・スケート選手権大会では二位(同大)を七七・一を離して五連勝を遂げた。

得点―男子選手権

①佐藤信夫 得点七九五・八六(スケール四六七、フリー三二八・八六)

②佐藤信夫 得点七九五・八六(スケール四六七、フリー三二八・八六)

続く同月二十五日桜宮、梅田両リンクで開催の第九回関西学生フィギュア・スケート選手権大会では、学部学生として初出場し、二位(同志社)をはなして初優勝。

(男子)

①佐藤信夫二〇七・五八(スケール一三三・三〇、フリー八五・二八、席次点三)

また、十二月五日京都アリーナで行われた第四回全国フリースケート大会でも男子ソロで優勝、これで三連勝を遂げた。

▽男子ソロ

①佐藤信夫(関大) 七五・三(席次点一七)

全日本学生弁論大会に優勝

十一月十二日青山学院大学で開催された第一回大杯争奪全日本学生弁論大会で、本学代表坪井一字君(法三)が堂々優勝。なお、本学雄弁会が全日本の覇者になるのは四年振りである。



校

友

校友会の動き 十一月

- 二日 事業部会
- 四日 校友総会
- 十一日 第二回文芸講演会
- 十二日 八尾支部総会
- 二十一日 広報部会
- 二十四日 昭六会
- 二十五日 財務部会
- 二十六日 祥久会
- 二十七日 電々公社関大会総会
- 二十八日 伊丹支部総会
- 二十九日 東京支部総会
- 二十九日 考選会総会

常 議 員 会

校友会では本年度総会開催方針を審議決定するため十月十七日に常議員会を開催。

常議員三十五名が出席し、寒川総務部長の司会で開会し、大月会長があいさつしたあと、大月会長を議長に議事にうつった。校友総会開催の件は、寒川総務部長が総務部会で検討した案を説明した。ついで各常議員から種々意見がでたが、

結局、本年度校友総会は十一月四日（母校創立記念日）の朝から開かれる関西大学創立七十五周年記念式につづいて午後一時から第三学舎講堂で開くことに決定した。また総会終了後、模擬店を開いて交歓する計画も進められることになった。

このあと事業、組織両部から事業報告があり、二、三の意見がかわされて午後八時閉会した。

事 業 部 会

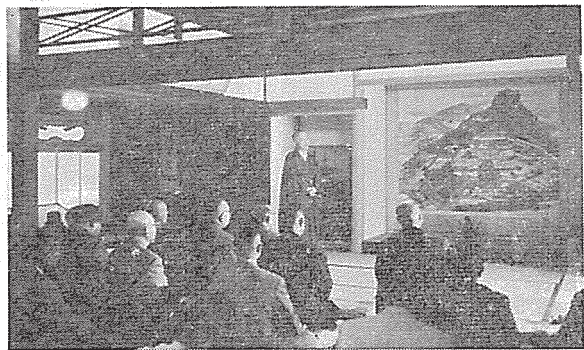
校友会事業部では本年度開催の第二回文芸講演会について協議するため十月十八日午後六時から天六学舎で部会を開催。

この結果、きたる十一月十一日に大阪産経会館で、第二回文芸講演会を開くことを決定した。

関大 大阪 倶楽部 総会

関大大阪倶楽部では十月二十九日午後本年度秋季総会を開催した。

会員は午後一時大阪駅前を観光バスで出発、河内平野を走り、阪奈道路を通過して生駒山「宝山寺」に到着。校友松本実道師の案内で寺院を参観したあと下山して料亭「丹頂」で懇親会を開いた。来賓三好万次本学理事長のあいさつ、中務倶楽部理事長のあいさつなどあつて乾杯し、ゆつくりと久しぶりの歓談をたのしみ、夕ぐれせまる頃、会員五十余名は再びバスで帰阪し楽しい総会をとじた。



生駒山宝山寺を参観する関大 大阪 倶楽部 会員

事 業 部 会

校友会事業部では、昨年につづいて第二回文芸講演会を開催することについて、最終的な打ち合わせをするため二日午後六時から部会を開催。

その結果、十一月十一日午後五時半から大阪桜橋・産経会館で、講師として司馬遼太郎、真山美保両氏を招いて開くことに決定した。

校 友 総 会

昭和三十五年定例校友総会はさる十一月四日（大学創立記念日）午後一時から千里第三学舎講堂で約三百五十名の校友が出席して開催。

開会にさきだつて本学グリークラブが学歌を斉唱、総務副部長坂本竜夫氏が司会して岡野副会長の開会の辞にはじまり、大月会長あいさつ、三好理事長、矢口学長が祝辞をのべた。ついで久井専務理事が母校の現況について詳しい資料をあげて説明した。

ここで大月会長が議長席について議事にはいり、まず事業報告は寒川総務部長が一括して校友会や校友の現勢、各種事業、機関紙発行状況、終身会費予納状況、夏季地方講演会などについて説明、あわせて昭和三十四年度校友会一般会計ならびに特別会計収支決算報告についても説明した。監事団から前記決算報告に

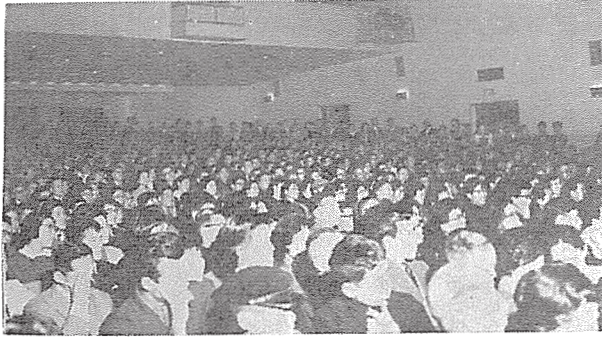
一 高 同 窓 会 総 会

関大一高同窓会では十月二十三日午後一時から千里山第三学舎で本年度総会を開催。

三島名誉会長、藤本、長谷川両顧問が出席して開かれ、三島名誉会長があいさつと母校の近況を報告した。つづいて北村氏を議長に議事にはいり、一般経過報告と会計報告が行なわれ、会則改正が認められた。議事のあと懇談会を開いて歓談し、母校の大学祭、記念祭を参観のため三々五々学園に散つていった。

ついでに監査結果がのべられたあと、いづれも承認された。

これで上程議題は終つたが、つづいて意見交換にうつり、さきに行なわれた学校法人の役員選挙や、校友会活動の振興などについて二、三意見がのべられ総会は終了した。終了後、会場を第二学舎に移して校友交歓のために模擬店を開催した。ビール、抹茶、コーヒ―、しるこの店が大繁盛、会場は満員であつたが、ひさしぶりに母校にやつて来た校友などには特に評判がよく、午後四時半ごろまで、皆ほがらかに語り合つた。



第二回 文芸講演会に集まつた満員の聴衆

第二回文芸講演会

校友会では、昨年、鳥海青児、堀正人、今東光の三氏を講師に招き、大阪朝日会館で第一回文芸講演会を開いて好評を得たため、事業部を中心に企画して準備を進め、十一月十一日に大阪産経会館で第二回文芸講演会をひらいた。

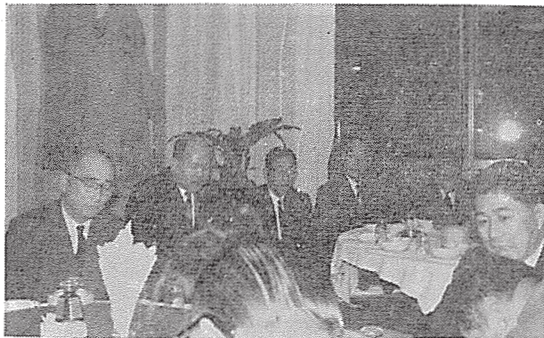
今回の講師は「泉の城」で直木賞を受けた司馬遼太郎、「泥かぶら」で文部大臣奨励賞を受けた真山美保の両氏、演題は司馬氏が「古代日本への幻想」、真山氏が「新しい人間関係について」であつた。

会場は五時すぎから続々と聴衆がつかかけ、開会時にはすでに八分のいりになつた。畑下事業副部長が司会し大月会長、村上事業部長のあいさつが終つたころにはすでに満員になつた。来聴者は校友、学生、市民、高校生ら各層にわたり、二時間半の講演を熱心に聴講した。講演のあと映画「暹東綺譚」が上映され、午後九時半、盛大裡に閉会。

昭六会

昭六会ではさる十一月二十四日午後六時から山中荘で本年度総会を開催。

出席者は二十数名をかぞえ、大学からも三好理事長が来賓として出席、理事長就任のあいさつと校友の母校発展への協力を要請した。



祥久会総会



昭六会総会

議事は三谷氏を議長にして進め、幹事を改選し、新代表に青野昌平氏を選んだ。そのあと「大阪の葦」を上映、母校の近況を見たあと懇親会をひらき、昔をなつかしみ歓談のち閉会した。

当日決定役員

代表 青野昌平

幹事 有賀司馬、吉川敬一、岡部俊吾、喜多由造。

なお、昭六会では役員改選にもなつて連絡先を大東市朋来四〇一・青野昌平氏方に移した。

祥久会

祥久会では十一月二十六日午後六時から、大阪東映会館六階の「南京飯店」で二十五名が出席して開催。

この日は大学を代表して久井専務理事も出席、矢野理事も会員として出席、にぎやかにたのしい懇親会を開いた。わざわざ岐阜からかけた会員塚本弁護士も最近の活躍ぶりを話し、一同熱心にききいるなど久しぶりの会合を心ゆくまで楽しみ午後九時閉会した。

なお祥久会では事務所を大阪市北区梅ヶ枝町九二・ヤノシゲビル四階四〇六号室、河内兼三氏方電話(三二二局)一八八二番に移した。

電々公社関大会総会

電々公社関大会ではさる十一月二十七日に京都建仁寺の拝観をかねて、本年度総会を開き、多数の会員が集まつて盛大な懇親会も催した。

伊丹支部総会

伊丹支部では十一月二十七日午後一時半から伊丹市自衛隊クラブで総会を開催。

この日は会員三十数名が出席、元広島高検検事長の安井栄三氏の「欧州旅行しぐじり話」は一同を楽しませた。司法書士をやっている紅一点栗花貞栄さんも出席してなかなか懇親会をたのしんで閉会した。



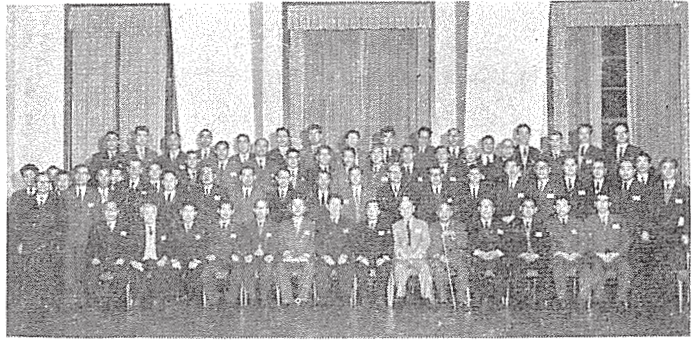
伊丹支部総会

東京支部総会

東京支部では十一月二十八日午後五時から神田の学生会館で母校から矢口学長を迎えて本年度秋季総会を開催した。

この日は支部設立以来はじめてと思われる約七十名の会員が出席、盛大に進められた。

香西副支部長の開会あいさつ、中山支部長のあいさつにつづいて矢口学長が母校の近況、とくに教授陣容の充実、設備



東京支部総会

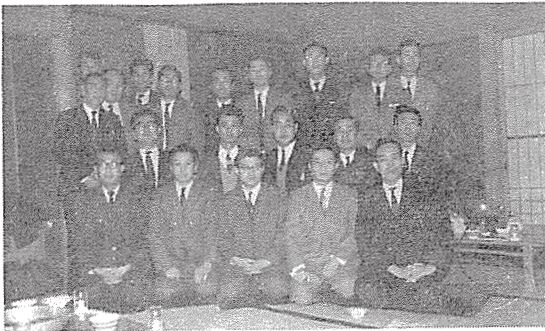
や学舎の完備したことなどについて詳しく説明し、あわせて抱負をのべた。久しぶりに聞く母校の現況に一同なつかしく母校をしのんだ。

このあとユーモアたっぷりの自己紹介につづきパーティを開いて歓談、読売巨人軍の難波昭二郎選手も交えて話がはずみ、沢田勇夫氏の外遊談で閉会した。

考革会総会

昭和二十年に大学予科を修了したもので組織されている考革会では、さる十一月二十九日午後六時から本年度の総会を喜楽別館で開催。

当日は恩師のなから広瀬教授が出席、会員も三十名近く集まり、学生時代



考革会総会

の思い出話などに話題をはずませ、久しぶりのつどいを楽しんだ。

なお、これからは年二回総会を開いてさらに親睦を深めようということになり、最後にそろって学歌をうたい午後九時半閉会した。

(e頁より)

が農漁業の産業基盤を捨て観光サーヴィス経済依存に転身することの経済学的意義をわれわれは一見華やかな消費観光ブームのヴェールのもとに冷徹に探らねばならない。そのとき次のような資本論の著者の敘述が思い浮んでくるのである。

すなわち、サーヴィス労働は――

「不払の労働をなすかぎりにおいて (soweit er, zum Teil unbezahlt, Arbeit ver richtet) 剰余価値実現の費用の軽減をたすける (die Kosten der Realisierung des Mehrwerts vermindern hilft) 労働への転換にすぎなへ」

転換された「この労働の増加 (Die Zunahme dieser Arbeit) はつねに剰余価値の増加の結果であつて決してその原因ではない (ist stets Wirkung, nie Ursache der Vermehrung des Mehrwerts)」のゆゑに、それは第一次産業から第三次産業への基盤移行は「社会の一般的発展に反比例する (steht also im umgekehrten Verhältnis zur allgemeinen ökonomischen Entwicklung der Gesellschaft)」である。

昭和36年度 関西大学入学試験概要

| 学部 | (一部) | (二部) | (出願期間及び試験日) | 出願期間 | 試験日 | |
|-------------|---|--|--|--|---------------------------------|--------|
| 法学部 経済学部 | { 法政 } { 法律 } { 政治 } { 学 } { 科 } { 学 } { 科 } { 学 } { 科 } | 400名 | 300名 | 地方試験 (高松, 福岡, 広島, 金沢, 名古屋各地) (一部全学部)…昭和36年1月16日～2月13日 | 2月19日 | |
| | | 400名 | 300名 | | 2月22日 | |
| 文学部 | { 英 } { 文 } { 学 } { 科 } { 独 } { 文 } { 学 } { 科 } { 史 } { 文 } { 学 } { 科 } { 新 } { 聞 } { 学 } { 科 } { 東 } { 洋 } { 文 } { 学 } { 科 } | 300名 | 150名 | 法学部… | 2月23日 | |
| | | | | 商学部… | 2月19日 | |
| | | | | 文学部… | 2月21日 | |
| | | | | 経済学部… | 2月22日 | |
| | | | | 工学部… | 2月20日 | |
| 商学部 | 400名 | 150名 | (試験科目) | | | |
| 工学部 | { 機 } { 械 } { 工 } { 学 } { 科 } { 電 } { 気 } { 工 } { 学 } { 科 } { 化 } { 学 } { 工 } { 学 } { 科 } { 金 } { 属 } { 工 } { 学 } { 科 } { 管 } { 理 } { 工 } { 学 } { 科 } | 400名 | | 法・経・文・商学部…国語、英語、社会、数学(簿記) (二科目選択) | | |
| | | | | 工学部…理科(物理、化学二科目共必須)、英語、数学 | | |
| 大学院 | 博士課程 | { 法 } { 学 } { 研 } { 究 } { 科 } { 文 } { 学 } { 研 } { 究 } { 科 } { 経 } { 済 } { 学 } { 研 } { 究 } { 科 } | { 公 } { 私 } { 法 } { 学 } { 専 } { 攻 } { 国 } { 文 } { 学 } { 専 } { 攻 } { 金 } { 融 } { 経 } { 済 } { 経 } { 済 } { 史 } { 専 } { 攻 } | 各5名 | (出願期間) 昭和36年3月1日～3月25日 | |
| | | | 4名 | (試験日) | | |
| | | | 3名 | 昭和36年3月30日、31日(2日間) | | |
| | | 修士課程 | { 法 } { 学 } { 研 } { 究 } { 科 } { 文 } { 学 } { 研 } { 究 } { 科 } { 経 } { 済 } { 学 } { 研 } { 究 } { 科 } | { 公 } { 私 } { 法 } { 学 } { 専 } { 攻 } { 英 } { 文 } { 学 } { 専 } { 攻 } { 日 } { 本 } { 史 } { 学 } { 専 } { 攻 } { 独 } { 逸 } { 文 } { 学 } { 専 } { 攻 } { 経 } { 済 } { 学 } { 専 } { 攻 } | 60名 | (試験科目) |
| | | | | 60名 | 博士課程…主論文、副論文、外国語 修士課程…論文、外国語 | |
| | | 50名 | | | | |

なお、詳細については「昭和36年度関西大学学生募集要項」を参照して下さい。

昭和三十五年十二月三十日発行(毎月一回三十日発行) 第三四六号 十二月号

編集兼 久井忠雄 発行所

大阪市長柄中通二丁目 関西大学出版部 印刷所
電話(35)二〇七二番 振替大阪二六七二番 株式会社ナニワ印刷所 電話(35)七二七一

関西大学文学会編

文学論集

第十卷 第二号

昭和三十五年五月刊 A5判 六一頁

新聞学特集

新聞の公共的責任……………加藤 三之雄

マッシュウ将軍会見記の場合……………金戸 嘉七

本山彦一の皇室中心主義……………広田 君美

心理学における集団の位置……………

関西大学文学会編

文学論集

第十卷 第一号

昭和三十五年四月刊 A5判 六六頁

史学特輯

メツテルニツヒ時代の保守と革新……………秋山 博愛

承和十三年僧善悟訴訟事件に関する覚え書……………蘆田 香融

漢代官吏の辞令について……………大庭 脩